

マ	ニ	で	私	生	を	力	も	た	彼	っ	中	ナ	な	ま	は		そ		
大	〇	き	た	し	生	が	の	ち	ら	て	の	、	恐	っ	い		う	平	
統	一	る	ち	、	ん	人	は	人	だ	平	様	、	怖	て	け		考	和	
領	六	の	は	愛	で	類	も	類	だけ	和	々	ミ	を	た	な		え	と	
が	年	だ	は	か	し	の	う	が	によ	が	な	ン	生	ち	い		る	は	
広	五	ら	も	ら	ま	愛	一	起	つ	壊	地	マ	み	人	過		。	勇	
島	月	う	う	つ	っ	の	度	こ	く	さ	域	ー	続	類	去			気	
を	二	か	一	ら	た	な	、	し	ら	れ	で	、	け	に	の			を	
訪	十	。	平	れ	の	さ	破	た	起	、	戦	い	て	も	出			持	
れ	七		和	、	だ	ゆ	壊	こ	こ	愛	争	。	い	う	来			つ	
た	日		を	愛	。	え	行	さ	さ	に	、	ロ	。	二	事			こ	
。	、		共	に	で	に	為	れ	れ	、	民	シ		度	を			と	
私	当		に	反	は	、	、	た	、	族	族	ア		と	よ			で	
は	時		し	し	そ	そ	言	事	私	分	、	ウ		み	み			は	
つ	の		ま	ま	の	の	葉	で	は	紛	争	ク		が	が			な	
い	現		っ	っ	愛	だ	、	は	な	争	に	ラ		え	え			い	
先	職		と	と	か	。	想	く	く	、	よ			ら	ら			か	
日	オ		は	は	ら		像	、	私	私	よ			せ	せ			。	
、	バ		は	た	誕	兵		い	は	は	よ			て	し			私	
こ			は	た	誕	器		い	全	全	よ			て	し			は	

の事を知った。この日まで私は一日一日平和な時を過ごしてきた。それが何と尊く恵まれた。同時、同じ日本人に世界の人々の身に起こっている災い、自然災害、戦争、食糧危機から自分は目を背けてしまっていたのではないかと反省した。ニュースを見るたび募金活動やボランティア、現地へ復興を願う手紙などできるものなら参加しようとして一度は考えるものの、すぐに忘れ、募金箱がなかったから、日本政府が何とかしてくれるだろうと言いつの考えが頭をよぎる。だが幸い、私は学校に通うことができる。そこで社会や国語の授業、友達との会話の中で起こっていることを学び、現地の人々へ思いをさせる。このような機会がある。実際に支援のために行動できる人は多くはない。だからこそ、今与えられた平和への取り組みのチャンスで自分のでできることをしなくてはならないのだ。そう、それは勇気を持つこと。勇気をもって

平和への発言をすること。「核兵器は必要な  
い」環境のために何かしよう」と。勇気を  
もってルール、秩序を守るために行動するこ  
と。周りの人を傷つけず、周りの人の命を大  
切にするために。そして学ぶこと。世界中が  
平和で満ちあふれるようにするために、私た  
ちにはたくさん課題がある。課題について  
考え、少し意識を変えてみる。例えば、いつ  
も声をかけない子にあいさつをしてみよう、や  
グループディスプレイセッションの中で反対意見に  
ついて深く考えるなど、そのような小さな  
一歩でも平和への課題解決へとつながるのな  
ら、そうするべきではないか。たとえ身近な  
所の平和についてもだ。いずれ私たちが大人  
になったとき、そうでなくてもこのような小  
さな行動のために勇気をもつこと、平和を愛  
する勇気をもつことは、めぐりめぐって世界  
の平和をつくることにつながるのではないか  
とと思う。なぜなら、勇気をもったおかげで私  
たちはすでに協調力、思いやり、立場を考え

る力、が培われているからだ。  
もし、戦争が起こるあの日の前に世界中の  
人々が勇気をもって恐怖を捨て、武器を捨て  
平和を愛していたらどうだっただろう。もち  
ろん一言で平和といってもその倫理観は人そ  
れぞれ違うだろう。また、戦争があったから  
こそその平和という考え方もあるかもしれない  
しかし、私たちの目指すべき所は、美しい知  
性を私たちの生活の向上のために使い、もう  
二度と戦争を起こさないように平和をつくり  
続けることではないだろうか。私たちが望む  
世界はまだ来ないかもしれない。数十年、数  
百年後かもしれない。しかし、私たちの地道  
な努力は必ず核なき世界、その先の平和へと  
つながる。武器を捨て、身近の愛する人々を  
守ろう。だからこそ、平和とは勇気をもつこ  
と、平和とは愛と勇気の渾然一体なのである

。

。